

私たちが木々に囲まれた生活を始めたことを知った方々から、「今度遊びに行くよ」と声をかけていただくことが多くあった。ずいぶん遠方からKさんがわざわざそのためだけに訪ねてきてくれたのには恐縮した。どんな世捨て人のような暮らしをしているのか見にくられたのであれば期待はずれであったかもしれない。それでもいろいろな方から「羨ましい生活ですね。」と言っていただけたのは素直に嬉しかった。しかし、そんな時は長くは続かなかった。WHOがパンデミック宣言をして以降、お客様が来られることは途絶えてしまった。それでも我が家は千客万来。

まず最初に来られたのがキタキツネだ。時々、敷地内を歩き来しやすくするために草を刈ってススキや木屑を敷いてつくった園路をとことこと散歩している。キタキツネは寄生虫を媒介しエキノコックス症を引き起こすので親しくはできない。向こうも親しくする気はなさそうで、こちらの顔を見てもすぐに逃げ出すでもなく何事もなかったように悠然と立ち去るのである。ただ、夜中に鳴かれるとちよつと怖い。コンコンと鳴くと思ったら大違い。ギャーアアワと大きな声で、まるで人間の大人が奇声をあげて叫んでいるようで事件性が高いのだ。

タヌキも数度いらした。一応、畑もあるのであまりお近づきになりたくないでお引き取りただこうと外に出たら、何を間違ったか縁側の下に潜り込んでしまった。姿は見えたので縁側に向かって一歩踏み出し圧をかけて見たが小さく丸まったままで動かない。少し可哀想だが冬だったので雪玉を投げつけて追い出すことにした。ところがそれでもピクリとも動かない。タヌキの「死んだふり」というのは本当で、それもかなり名優だ。諦めて家の中に戻って様子を見ていたが動き出した気配は無かった。このまま同居するのは勘弁して欲しかったが、しばらくして外に出て見ると姿が消えていた。さすがタヌキ。

隣人は庭をエゾシカが横切ったことがあると言っていたが、我が家の敷地には来られていない。・・・のはずだ。敷地のほとんどは夜は真っ暗闇になるのでどんなお客さんが来られているのか検討がつかない。数年前は家から百メートルも離れていないところでえヒグマの目撃情報があつてニュースになっていた。知らぬが仏である。それでも雪の積もった冬は足跡からどんなお客さんが来られていたのかある程度わかる。良くウサギの足跡は見るがお会いしたことはなく失礼している。

結構フレンドリーなのはエゾリスだ。最初の冬に明け方寝室の窓のあたりで物音がするので目を覚ましたら、縁側に積んだ薪の上にちよこんと座ってこちらを見ているエゾリスと目があつた。エゾリスは三角形の耳の上に長い毛があるのがなんとも可愛いのだが、仕草はどちらかというとおっさん臭い。股を開き加減にちよこちよこ動く姿はステテコがお似合いだ。ただ、全速力で敷地を横切る時は別人のように素早く、手足を胴と一直線になるように伸ばして地上すれすれを飛ぶように移動する。雪に残された足跡からも飛ぶ姿がわかる。

